



# 保健会館クリニックの 医師がお答えします!

## 第6回 HPVワクチン

日本では毎年約1万人が罹患し、約2800人が死亡している子宮頸がん。患者数・死亡数はいずれも増加傾向で、特に若年層での罹患の増加が問題となっています。一方、多くの先進国では近年、子宮頸がんによる死亡数は減少しています。そのカギとなっているのはHPVワクチンです。こうした中、2009年の定期接種化後に差し控えられていたHPVワクチンの「積極的勧奨」が、今年4月に再開しました。そこで今号では知っておくべきHPVワクチンについて、本会理事長の久布白兼行医師が解説します。



【執筆者】  
久布白 兼行  
くぶしろ かねゆき

本会理事長、検査研究センター長

1982年慶應義塾大学卒業。米国ワシントンCancer Research Foundation (現Sanford Burnham Prebys Medical Discovery Institute) 留学、慶應義塾大学病院婦人科診療科副部長、東邦大学医学部産婦人科教授、慶應義塾大学医学部客員教授を経て、2018年4月本会検査研究センター細胞病理診断部長に就任。2021年より現職。  
日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医、日本婦人科腫瘍学会婦人腫瘍専門医・指導医。

### Q1 HPVワクチンとは どんなワクチンですか?

ヒトパピローマウイルス(HPV)は、性的接触のある女性であれば生涯で50%以上の方が感染する可能性があると考えられているウイルスです。子宮頸がんや尖圭コンジローマなどの疾患の発生に関与することが知られています。子宮頸がんの発生に関わりがあるHPVは高リスク型HPV Vと呼ばれるもので、HPVワクチンは、高リスク型の中で子宮頸がんから最も高頻度に検出されるHPV 16型と18型の感染を防ぐ効果があります。HPVワクチンを接種することで子宮頸がんの原因の50~70%を予防できると見込まれています。

### Q2 ワクチンの 接種対象者について 教えてください。

HPVワクチンは、小学校6年~高校1年相当の女子を対象に定期接種が行われています。また、日本産科婦人科学会のガイドライン(2020年版)では、「推奨レベルA」の強くすすめる接種対象者として「最も推奨される10~14歳の女性」「次に推奨される15~26歳の女性」をあげています。

### Q3 HPVワクチンを接種 したら、子宮頸がん検診を 受けなくてよいですか?

HPVワクチンですべての高リス

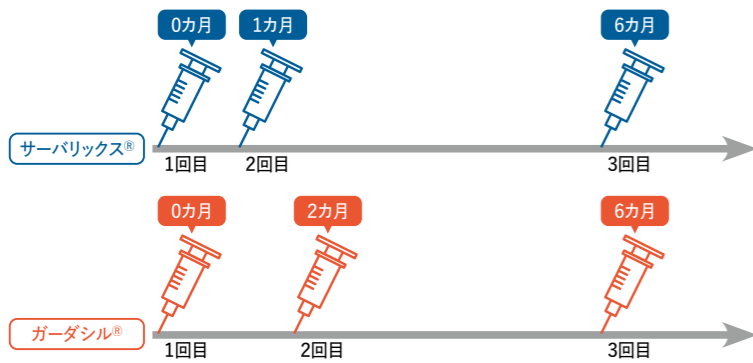
### Q4 キャッチアップ接種とは 何ですか?

日本においては、2013年から2021年までの間、HPVワクチン接種の積極的勧奨(接種を個別にすすめる取り組み)が一時休止されてきました。その後、2022年4月になってようやくHPVワクチン接種の積極的な勧奨が再開されました。そのため、1997年4月2日~2006年4月1日の間に生まれた女性の中に、通常のHPVワクチンの定期接種対象年齢の間に接種を逃した女性がおられます。このように、定期接種の対象年齢期間にワクチン接種を受けていない方を対象にワクチン接種を行うことを「キャッチアップ接種」と呼んでいます。

### Q5 ワクチンの副反応が 心配です。

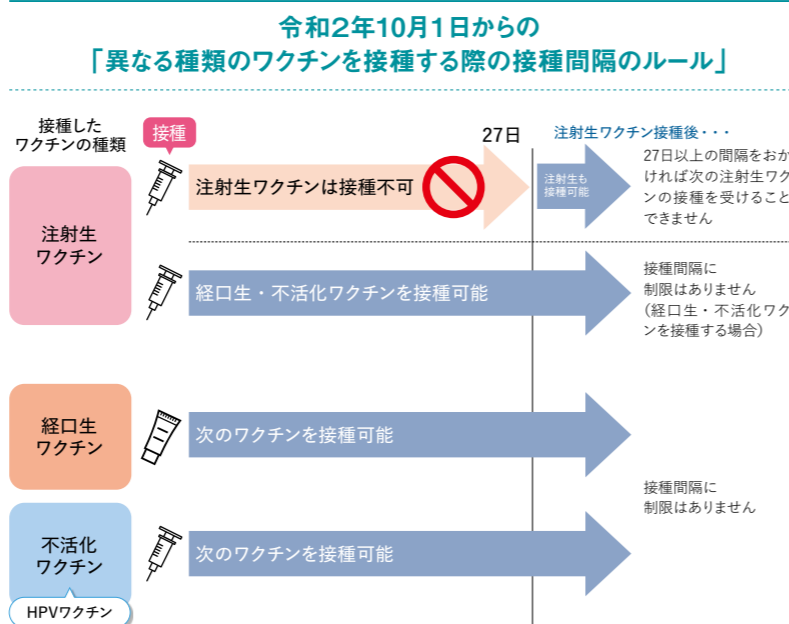
まず、ワクチンの接種を希望される場合、健康状態や体質などを担当の医師に伝え、予防接種の必要性、リスク、期待される効果などについて説明を開き、理解した上で接種を受けていただきたいと思えます。HPVワクチンの接種後に見られる主な副反応として、発熱、接種した部位の痛みや腫れ、注射による痛

図1 HPVワクチンの一般的な接種スケジュール



出典:厚生労働省ホームページ「HPVワクチンに関するQ&A」  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/hpv\\_qa.html#Q2-6](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/hpv_qa.html#Q2-6)より

図2 HPVワクチンと他のワクチン接種を行う場合の接種間隔



※ 新型コロナワクチンとの接種間隔については、互いに、片方のワクチンを受けてから2週間後に接種できます。ただし、今後情報が変わる可能性もありますので、ご注意ください。

厚生労働省ホームページ「ワクチンの接種間隔の規定変更に関するお知らせ」  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou03/rota\\_index\\_00003.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou03/rota_index_00003.html)より

み、失神などが報告されています。もし接種後に体調の変化や気になる症状、心配なことがありましたら、接種を受けた医療機関などの医師に相談してください。また、HPVワクチン接種後に生じたさまざまな症状について診療を行う協力医療機関が都道府県ごとに設置されています。

あたり、まず大事なことは子宮頸がんという病気について十分にご理解いただき、HPVとの関わりを知っていただくことです。その上で、HPVワクチンはどのような効果が期待できるのか、また副反応などについて納得がいくまで医師のお話をどのようにか決めていただくことが重要です。

(記事は2022年9月末時点の内容です)